和光中学校道徳通信　　*生徒会スローガン「自学豊心 ～前向き・励まし・思いやり～」*

和 ～心をつなぐ～

令和５年１０月２６日
第　５　号

届け先がわからない手紙

2013 年に開催された瀬戸内国際芸術祭に参加したアーティストの久保田沙耶さんは、詫間町の沖合にある粟島に“届け先がわからない手紙を預かる漂流郵便局”を開局しました。この郵便局に込められた想いから、漂流郵便局に手紙を届ける人の気持ちや手紙が持つ力について考えました。

〔※ 裏面：放送内容〕

☆ １年生 ☆

○　届けたくても届けられない手紙を書く人が多いということは、その一人一人に大切な人がいるんだなと思った。すごく素敵だなと思った。

○　たった一人の想いと思いつきによって、こんなに多くの人の気持ちが少しでも軽くなっていることに驚いた。

○　漂流郵便局は、亡くなった方にとって大切なものだと思いました。また亡くなった方とその親族を結ぶもなんだと思いました。

☆ ２年生 ☆

○　漂流郵便局は、書いた人の想いが深くあらわれている場所だと思った。

○　自分は届け先が分からない手紙を、この郵便局へ送ったことがあるが、行ったことがないため、機会があれば行ってみたいと思った。どうすることもできない思いを話す場所が、知り合いの見るＳＮＳではなく、誰かが見る手紙なのが良いと思った。

○　伝えることができない想いも、この郵便局なら伝えられるかも知れない、そういう純粋な気持ちを持つ日本人がたくさんいることに、うれしさと温かさを感じました。

☆ ３年生 ☆

○　漂流郵便局の存在は、人々の支えになっていると思いました。絶対に届けることのできない手紙だけど、届けることができたという気持ちにしてくれるからです。私だったら志村けんさんに手紙を書きたいです。ずっとたくさんの人々に笑いを届けてくれたすばらしい人だからです。

○　漂流郵便局がたくさんの人の心のよりどころになっていることが分かりました。僕も未来の自分へ手紙を書きたいと思いました。

○　漂流郵便局に亡くなったおじいちゃんに書いた手紙を出してみたいと思いました。手紙には温かみがあるし、想いが伝わりやすい大切なものだと思いました。

瀬戸内国際芸術祭は３年に一度、瀬戸内海の島々を舞台に行われています。国内だけでなく、海外からも多くの人々が訪れています。そんな瀬戸内国際芸術祭で出品されている作品の一つが、三豊市沖の粟島にある「漂流郵便局」です。漂流郵便局は、もともと粟島にあった廃業した郵便局の建物を作り替えたものです。漂流郵便局には届けたくても届けられない手紙が全国各地から届きます。手紙の宛て先は、亡くなった方や未来の子孫、想いを伝えることのできなかった初恋の人、長年の愛用品などさまざまです。特に亡くなった方宛ての手紙が多くあります。未来の自分へのタイムカプセルのように手紙を書く人もいます。集められた手紙は、回転すると波の音がする特製の私書箱に保管され、訪れた人が自分宛だと感じた手紙を持ち帰ることさえできます。
２０１３年の瀬戸内国際芸術祭に出品され、芸術祭期間中の１か月で集まった手紙は約 400 通でした。当初はこの 1 か月間だけの予定でしたが、その後も月平均 200 通のペースで手紙が寄せられ続けたため、漂流郵便局は継続されることとなりました。始まってから約９年間で、合計５万通を超える手紙が寄せられました。

さて、漂流郵便局はどんな想いから作られたのでしょうか。

漂流郵便局を開局したアーティストの久保田沙耶さんは、瀬戸内国際芸術祭に出品するにあたり、初めて粟島を訪れました。まず最初に驚いたことは、島に流れ着いた漂流物があまりにも多かったことです。粟島は、潮の流れと地形により、漂流物がたまりやすいのです。その時思ったのが「自分もこの漂流物のように、この島に流れ着いたんだ」ということ。怖いような安心するような感覚。この感覚を作品という形に置き換えることで、いろんな人にも体験してもらえないだろうか、という気持ちが生まれました。郵便のことも勉強した久保田さんは、「ハガキを書いて漂流郵便局宛に投函すれば、まるでボトルに入れて海に流される宛先のない手紙が、漂流物となって流れ着くように島に集まってくる」、そんな郵便局ができたらと考え、漂流郵便局を作りました。また久保田さんは旧粟島郵便局の局長・中田勝久さんと出会いました。中田さんには憧れの人がいましたが、もうその人と会って話をすることは出来ません。それでも手紙を書くことでなら会話ができるのではないかと思い、このような郵便局となりました。今、中田さんは漂流郵便局の局長として、手紙を書いた一人一人の気持ちを思い浮かべながら、寄せられた手紙を大切に保管しています。

ＳＮＳが発展し、瞬時にいろいろな人とのやりとりが出来るようになった現在でも、手紙は書いた人の想いや温かみをより深く感じ取ることが出来ます。みなさんはどんな人に宛てた手紙を書きたいと思いますか。

☆ 保護者の方からの感想 ☆　　９月「声をあげる勇気と男女平等」

- 女性の社会進出のためには、男性の協力はなくてはならないと思います。男性に限らず家族の理解も必要だと感じます。
- 男女共同参画社会は法律により整備されていますが、なかなか現実には浸透してないのだと痛感しました。性別の垣根を越え、個人としてお互いを尊重・尊敬し、一人の人間として平等に能力が発揮できる環境が大切なのだと感じました。声を上げ、その声を大切に社会を変えていく力はとてもすばらしい事だと思います。

（紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。）